

## 様式③

提出日 2017年 12月 22日

# 2017年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「沖縄県の学生のアパートへの不満に関する調査」

氏名：松田 大樹

所属学部学科：法経学部・法経学科

### I. 初めに

私は、沖縄で生まれ、沖縄で育ってきた。その愛する地・沖縄で問題視されていることがある。例えば、「賃金の格差」だ。日本本土と違って、沖縄は観光産業で栄えているように見えるにも関わらず、賃金が低い。その賃金の低さから、新たに問題が生まれる。それらのことを踏まえ、調査したことを交えつつ、考えていきたい。

### II. 研究の目的、動機

本研究の目的・動機は三つある。

- ・ 沖縄県における労働問題は、労働に対しての賃金の低さだけに留まらない。労働に対しての賃金の低さ、休みたいときに休めない、同様に、辞めたいときにも辞めることができないなど様々な不満がある。その不満や問題をどのようにすれば解決できるのか、問題解決に向けたアルバイト学生の意見や考えを明らかにするため。
- ・ 「ブラック」な会社やきわどい部分を持っている「グレー」な会社など様々な部分でアルバイトを通して感じていることがあると思うので、実際にアルバイト学生がどう思っているのか明らかにするため。
- ・ アルバイト生の労働条件や労働環境が実査にどのような実態になっているのか明らかにするため。

### III. 研究方法、地域、期間

研究方法：沖縄大学文化人類学入門の授業時のアンケート調査、アルバイト先でのアンケート調査

地域：沖縄県（那覇市）

期間：11月

### IV. 結果

調査対象者：沖縄大学の学生20人 男性17人（85%）、女性3人（15%）

年齢：18歳～23歳

問1 あなたが経験した、あるいは現在勤めているアルバイトの業種は何ですか？  
(複数回答可)

スーパー（4人）、居酒屋（1人）、大学の図書館（2人）、電話（4人）、結婚式場（1人）、倉庫（1人）、試食販売（1人）、ファーストフード（1人）、コンビニ（1人）、ホテル・旅館（2人）、デパート（1人）、アミューズメント関係（1人）、配送

(1人)、デリバリー(1人)、その他飲食(2人)、その他通信・IT(1人)、その他販売(1人)

接客業18人(90%) 接客業以外のサービス業2人(10%)

これらの結果から、沖縄の大学生は接客業を含むサービス業を選ぶ傾向があるとみえる。これには、沖縄県に特徴的な観光など、第3次産業の占める割合がアルバイトの労働市場にも大きく関わっているためなのであろう。

問2 最初にアルバイトを始めたのはいつですか？

高校生(13人)、大学1年次の4月(2人)、大学1年次の5月・ゴールデンウィーク後(1人)、大学1年次6月～7月の夏休み前(1人)、大学2年次以降の1月(1人)、大学2年次以降の4月(1人)、大学2年次以降の夏休み(1人)

高校生13人(65%)、大学1年次4人(20%)、大学2年次3人(15%)

高校生から働いている人が65%と半数を超えている。生活費や娯楽等の自分のために使うお金を稼いでいると思われる。

問3 労働基準法では、「使用者は労働契約の締結に際し、労働者に対して賃金、労働時間その他の労働条件を明示しなければならない」とされておりますが、あなたがアルバイトをする際、労働条件はどのように知りましたか？

働く前に具体的な説明はなかった4人(20%)

働く前に口頭で知らされた3人(15%)

働く前に会社から労働条件が記載された書面を見せられ、知らされた2人(10%)

働く前に会社から労働条件が記載された書面を渡され、知らされた10人(50%)

覚えていない1人(5%)

ほとんどの会社では、労働条件について書面の配布や具体的な説明も行われている。しかし、少数ではあるが説明をしない会社もみられる。そのような点が、働いているうえでトラブルになりかねない。

問4 普段、実際に働いている時間について、「勤務をする日とその日の労働時間」や「深夜勤務の有無」、「時給」を教えてください。

週4(火、金、土、日)3～6時間未満

週7 6～8時間未満

週4(月、水、木、土)3～6時間未満

週2(土、日)8～10時間

週4(月、火、金、日)3～6時間未満、日曜のみ6～8時間未満

週4(月、水、木、土)3～6時間未満～6時間未満

週3(木、金、日)3～6時間未満、日曜のみ6～8時間未満

週5(火、水、木、土、日)6～8時間未満

週4(水、金、土、日)3～6時間未満

週4(月、水、土、日)6～8時間未満

週5(火、水、木、土、日)3～6時間未満 日曜のみ6～8時間未満

週2(土、日)6～8時間未満

週2(月、水)3～6時間未満 水曜のみ6～8時間未満

週4（火、水、金、日）3～6時間未満  
週4（火、水、金、土）3～6時間未満  
週4（火、水、金、土）3～6時間未満  
週7 3～6時間未満  
週5（火、水、木、土、日）3～6時間未満  
週4（月、水、土、日）3～6時間未満

週2は3人（16%）、週3は1人（5%）、週4は10人（53%）  
週5は3人（16%）、週7は2人（10%）

週4で働いている人が53%（10人）と最も多い。労働時間は、平日に3～6時間未満、日曜のみ6～8時間未満と稼ぐ人がいる。このアンケートを通して、土日のみだけ働いて平日学校に支障が起こらないようにしたり、平日のみ働いて土日に自分の用事を済ましたりなど働くパターンが様々あることが分かった。

深夜勤務ありは10人（77%）、深夜勤務なしは3人（23%）  
深夜勤務は、時給が少し上がる。学校終わりから働いて、お店のラストまで働く人がいるため、このようなデータになったと思われる。

750円3人（15.8%）、770円1人（5.3%）、780円1人（5.3%）、800円4人（21.1%）、850円1人（5.3%）、900円1人（5.3%）、1000円3人（15.8%）、1040円1人（5.3%）、1050円1人（5.3%）、1100円2人（10.5%）、1125円1人（5.3%）  
平均時給は、924円です。（少数第1位4捨5入）

最低賃金から沖縄県では高時給などところまで、幅広く存在していることが分かった。それと同時に、平均時給よりも低い賃金を貰って働いている人が半数いると確認できた。

問5 アルバイトをしていて、行われたことを教えてください（複数回答）。

一方的に急なシフト変更を命じられた・時間外労働や休日労働、深夜労働について、割増賃金の支払われなかった・1日に労働時間が6時間を超えても休憩時間がなかった・商品やサービスの買い取りを強要させられた・退職を申し出ても勤務先の都合を理由に、退職させてもらえなかった・採用時に合意した仕事以外の仕事をさせられた・採用時に合意した以上のシフトを入れられた・一方的にシフトを削られた・給与明細書が貰えなかった・準備や片付けの時間に賃金が支払われなかった・労働条件上の不当な扱いはなかった

勝手にシフトを変更したり、休憩時間がなかったりと労働条件に反することが行われている現状にある。労働条件が違う、重労働によりきつい、楽しくないなど不満につながっていく。これがまさに「ブラック」と呼ばれるであろう。

問6 アルバイトによって、学業に支障が出た経験がありますか？

支障ありは3人（15%）  
その日に出勤を頼まれた・テスト前でも休めない・掛け持ちしていたので、眠ることができなかった

支障なしは17人（85%）

学業に支障なしは85%いるが、少なからず15%は学業に支障をきたしている。そこから、生活循環が狂ったり、成績に影響したりと影響が大きすぎる。人手不足などの理由により、アルバイトを使うのは許せない。

問7 労働条件などに関して困ったことがあった場合、どうしましたか？または、どうしますか？

知人・友人・学校・職場の先輩・同僚に相談、インターネットで調べた、そのアルバイトを辞めた、自分で会社との話し合いの機会を持った、何もしなかった

誰かに相談する（89%）、何もしない（11%）

不満や問題があれば身近な人に相談することで、解決できることがあるかもしれないが、「何もしない」人が1割以上いることは、アルバイトを行う上で大きな問題の一つと考えられるだろう。アルバイトにもきちんと話せる環境作りが重要ではないかと思う。

問8 働いていて、不満に思うことはありますか？

不満ありは5人（25%）

「社員よりも働かされた」「客の態度」「業務内容が多すぎる」「仕事量の割には時給が低い」「いろいろ」

不満なしは15人（75%）

アルバイト学生は、安い時給にも関わらずに社員よりも多く働かされる場合があることがわかった。時給と労働力が釣り合わないため、不満がうまれると思う。

問9 あなたが求める理想の労働条件は？

働きたいときに、働けること・シフトや労働時間の融通が利く  
休みが20日以上で15万以上・休みがあり、給料が高い  
休み希望がなるべく通る、給与がしっかりある・特にない  
安定感・ごく普通の労働  
プライベートに入ってこない・できる給料をもらえる  
自分の勉強やプライベートな時間に、充分時間を割くことができ、仕事量とあった納得  
融通が利く・時給1000円以上  
お金が高く、休める・楽しく、内容の濃い仕事  
現状維持

最低賃金を全国一律化していくということも必要なのではないか。  
現状の環境に満足している人もいて、驚きました。  
学生がアルバイトをしているため、やはり融通が利くところを望んでいることが分かりました。

問10 長時間労働や休憩時間がないことが「ブラックバイト」と思うが、あなたが思う「ブラックバイト」とは？

17時～26時まで、休憩がなかった  
早めに退勤をさせる・パワーハラスメント

長時間労働で休憩なし、休みが取れないなど  
自分の意見が通らない、意見を示しにくい環境  
残業代入らない、未払い、12時間超え  
勝手にシフトが入っていた、休憩がとれない  
時給に似合わないバイト  
安い給料で、ずっと働かされること  
融通が利かない  
バイト生の要望が全く通らないバイト  
休みが取れない、金が払われない  
労働時間の超過、休憩なし、給料の振り込みがない  
休日出勤が多々あることや、残業が多いこと

長時間労働に対しての休憩がないことや給料が支払われないこと、勝手にシフトを入れられたなど、アルバイト先の都合で行われることが、ブラックだとデータから読み取ることができた。

問11 なぜ、「ブラックバイト」が出てくると思いますか？

アルバイト学生は、なめられている  
会社の上の人ばかり儲けようとする企業が多いから  
給料が不当に低いこと、労働の環境等  
人件費削減のため・会社の上の人の利益  
会社の上の人がちゃんとしていないから、勝手に人の基準を決めたりしているから  
言いたいことがあっても、周りの人が頑張っているから合わせないといけない環境  
人手が足りていないため  
店の都合・上司がくずだから  
バイトは正社員に比べて、業務も少ないし、辞めるのも簡単だから下に見られてしまう  
人だから・どうしても人手が足りなくなってくるから  
経営者の問題・運営をうまく回せていないから  
日本のサービスの高いレベルと平等さが生んだ破滅への道、高い商品をみんなに平等にやるせいでレベルがあがっていったせい  
日本の経済が安定していないこと。雇用の問題

アルバイト先の人手不足や経営が成り立たないなどの都合により、地位的にも低いアルバイト学生が給料にも見合わない労働を求められるため、ブラックバイトが出てくる。

問12 「ブラックバイト」とそうでないバイトの違いは？

店長がしっかりしている・たくさんある  
給料が不当に低いこと、労働の環境等がない職場のこと  
会社の上の人の人格  
働いている人が満足しているか、していないか  
自分の意思をもって働きたいと思えるかどうか・わからない  
職場の雰囲気が違う・社員の扱い  
働いている人達が楽しそう・環境がいいか、悪いか  
融通の有無  
休みが取れて、お金が入る

きちんと法に乗っ取って、運営しているか  
時間通りに勤務が終わる

ブラックバイトは、労働環境や人間関係という会社の方針や社風に問題があり、うまく円滑に回っていないためだと思う。

そうでないバイトは、職場の雰囲気も良く、コミュニケーションが取れていて会社の方針も良いため、うまく円滑に回り働きやすいのだと思う。

問13 バイト先の労働条件や労働環境において、「グレー」と感じる時はありますか？

社員がアルバイト生に暴力を振っていた

特に感じない・求められる責任

働いているメンバーはいいが、仕事内容がだめだったり

決められた時間内に業務が終わらず作業が遅れたとき、タイムカードが押せない

タイムカードを切った後も、結局30分程働いたとき

特にない

暴力やシフトの時間外の労働はブラックとも思われるが、それが他にばれると会社自体に影響が起こるため、いいように見せかけていると思われる。

問14 ブラックバイトをなくす方法は？

入る前に契約をしっかりと確認する・下の人を大切にする

上司の理解を寛容・人数が足りない状態の時に脅す

管理する人がちゃんとする

コミュニケーションがしっかりとれる職場作り

法律を変える・現在の状況ではかなり厳しい

その会社が管理するべきだと思う・時給をあげる

ブラックだと気づいたら、すぐ逃げる

経営者を正す・ないと思う

難しいが、雇用を増やす。(正社員採用を増やす)

アルバイトを始める前にしっかりと契約内容などを確認し、しっかりと話し合うことが重要だと感じる。

人手不足などの時は、雇用を増やして補うなど会社なりに環境を変える工夫や経営に対しての戦略を立ててほしいと思う。

## V. 考察、分析

・沖縄県の最低賃金の今回の調査における平均賃金との差は、187円でした。同じ条件で月収、年収を調べたところ、月収は約3万円、年収では約35万円の差が生まれました。時給が10円変わるだけでも給料が高くなるため、賃金の差で187円という数字はとてつもなく大きいと感じられます。賃金が低くてもアルバイトが楽しく働ける環境にある場合は良いのですが、賃金が低くブラックなアルバイトに当たった時は、耐えられなくなります。自分が思う「ブラックバイト」の基準を決め、どのようにすれば「ブラックバイト」を見つけ出せるのか、考える必要がある。

・接客業はお客様と関わることが多い、クレームなども来るだろう。そのたびに不満を感

じていると大変。だから、クレームが来ないための方法を会社全体でコミュニケーションを図り、改善していけばそれだけで雰囲気も良くなり、「ブラックバイト」と思っていたところもよく見えてくると思う。

#### VI. 今後の展望

- ・沖縄県の最低賃金を全国と同じ値にすることで現在の状況よりも良くなるのではないかと思う。
- ・社員がアルバイト学生に対する姿勢の改善によって、会社の雰囲気が変わり接客の質の向上にもつながっていくと思うから、会社の方針を見直してほしいと思う。

#### VII. 終わりに

学生アルバイトの調査をして、今大学生がアルバイトで抱えている悩みや厳しい現状を把握することができた。そこから、「ブラックバイト」など社会で問題になっていることをつなげて、どうすれば良くなっていくのか、どうすれば排除できるのか、各々が常に考えなければいけないと感じる。

#### VIII. 参考文献、調査協力

参考文献：沖縄労働局「学生アルバイトの実態把握のためのアンケート調査結果（2016）」  
調査協力：沖縄大学の学生

#### IX. 指導教員コメント

大学生のアルバイト実態・意識について、理想の労働条件、ブラックバイトとは何か、ブラックバイトが起こる理由・背景、ブラックバイトをなくす方法など、学生目線で問題の所在や解決の方法を模索した意欲的な調査研究であった。今後、調査結果をより丁寧に読み込む作業を行ってほしい。